

未来を拓く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト

◆はじめに

毛呂山町教育委員会では、今年8月に「未来を拓く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針」を策定しました。

これは、保護者のみなさんからいただいたアンケート結果や教育関係者の意見をもとに作成した「教育のグランドデザイン」を進めるための基本方針です。(ゆずの里通信No.6や広報もろやま5月号でご紹介させていただきました)

これから本紙を通じ、下記テーマにそってプロジェクトの内容をお知らせします。

11月	12月	1月	2月	3月
教育をめぐる状況	学力の向上	小中一貫教育※	コミュニティ・スクール※	プロジェクトのまとめ

※小中一貫教育

中学校区の小・中学校で共通の目標「めざす児童生徒像」を設定し、義務教育9年間を通じて指導内容や指導方法などを実施する教育のことです。

→中学校区の小・中学校 ①毛呂山小学校・泉野小学校・毛呂山中学校

②川角小学校・光山小学校・川角中学校

毛呂山町には2つの中学校区があります。

※コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域が協働し、社会が総がかりで子どもを育てる「地域とともにある学校」として、教育委員会が指定した学校をコミュニティ・スクールと呼びます。

→小中一貫教育と混同しやすいのですが、あくまで小中一貫教育を支える制度の一つです。

毛呂山町では、毛呂山中学校区と川角中学校区でコミュニティ・スクールを実施します。

◆教育をめぐる状況

毛呂山町では、児童・生徒の確かな学力の定着と豊かな心、健やかな体の育成をめざして小中連携教育に取り組んできました。小学校では「まなびアップ教室」の実施や学力向上支援員の配置、中学校では部活動外部支援員や補習支援員の配置など、学力・体力の向上に向けた取組みが定着するなど一定の成果が得られています。

また「毛呂山っ子みんなの学習規律」による小・中学校9年間で統一した学習規律も定着したことで、現在、どの学校の児童・生徒も落ち着いた学習態度で授業に臨んでいます。



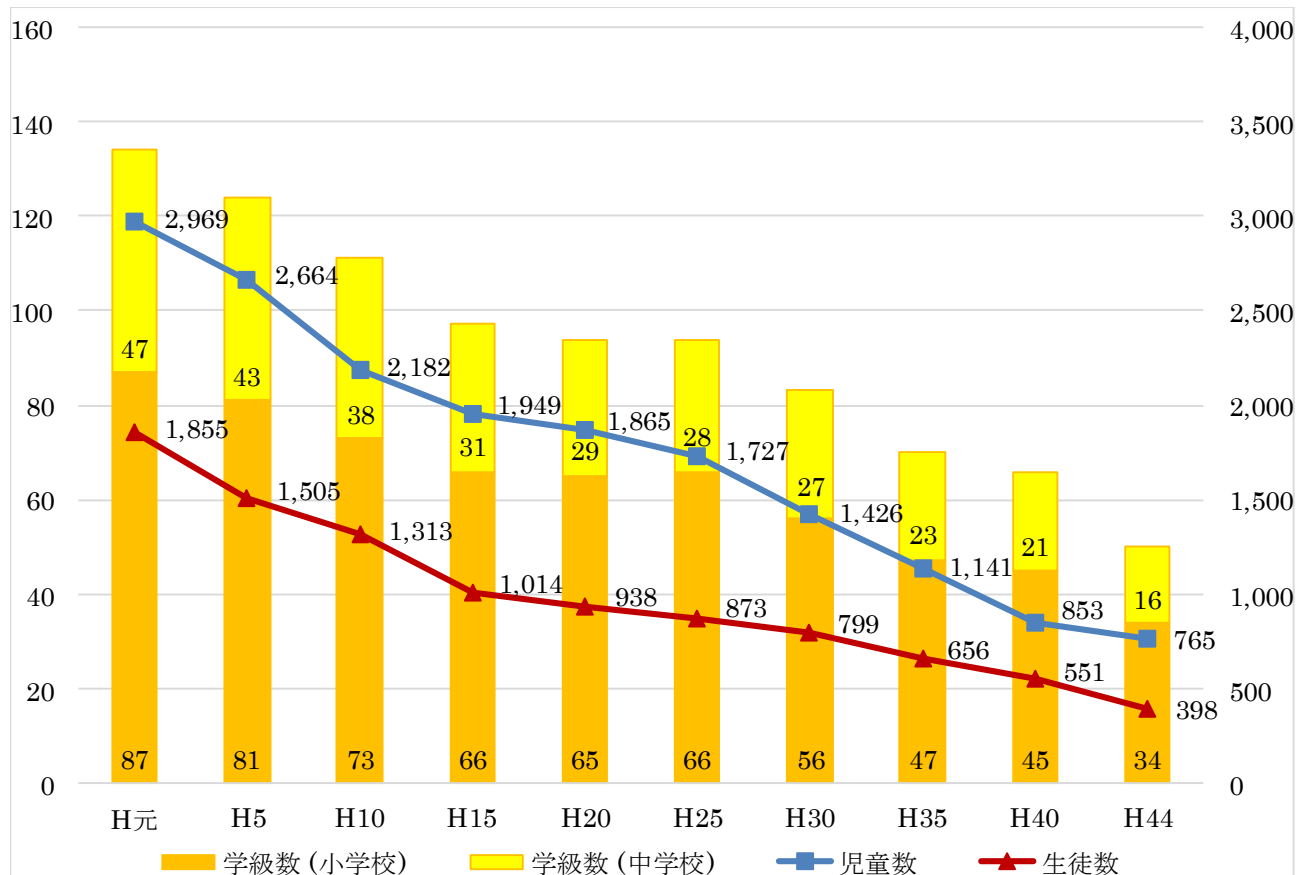
しかし、急速な社会の変化、価値観の多様化、情報化により子供たちを取り巻く教育環境は大きく変化しています。特に児童・生徒数の減少は、とても大きな教育課題となっています。

児童・生徒数の減少

小学校の児童数は昭和 58 年度の 3,599 人、中学校の生徒数も昭和 62 年度の 2,015 人をピークに下落が始まり、現在当時の約 4 割まで減少しています。さらに今後の児童・生徒数の見込みでは平成 35 年度にはピーク時の 3 割に、平成 44 年度にはピーク時の約 2 割にまで落ち込むものと見込まれています。

毛呂山町立小学校の児童数・中学校の生徒数及び学級数

学校教育課 H30.5.1 現在



少子化とともに、単学級になる学校が増えていく・・・個に応じた指導の効果も期待できませんが、小学校では6年間クラス替えができず人間関係に課題が生じ、中学校では教科担当の職員の確保やクラブ活動での指導者が不足し、学校教育に大きな支障が出ることを予想されます。

このような毛呂山町の教育環境から

学校教育においては、児童・生徒に確かな学力をつけ、豊かな人間性を育むことが重要であり、教育環境は児童生徒や教職員の適正な規模、通学などに関係する校舎の適正な配置が保たれていることが求められます。

そのためには、児童・生徒間や小中学校の教職員同士の交流による義務教育9年間を一体として捉えた小中一貫教育やコミュニティ・スクールの実施が必要であると考えています。

基本方針はダウンロードできます

町ホームページトップ>教育委員会>教育委員会ニュース>未来を拓く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針を策定しました